

6-1	
主題	自立支援を目的とした養護としての本来の姿を取り戻すための取り組み
副題	

キーワード1	自立支援	キーワード2		研究期間	5ヶ月
--------	------	--------	--	------	-----

法人名	社会福祉法人 仁生社				
事業所名	養護老人ホーム 高砂園				
発表者	浅野千鶴	アドバイザー	なし		
共同研究者	小林郁子 永井順子 青木真弓				

電話	03-3607-4060	FAX	03-3607-4654
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	高砂園は水元公園に程近く、水と緑に囲まれた閑静な環境にあります。定員は140名、平均年齢82歳、要介護認定者は49名です。複合サービスを持つ法人の利点を生かし入園者が安心して生活できるよう多職種連携に努めています。自立援助、社会復帰への促進を処遇目標としています。
------------------	--

**《1. 研究前の状況と課題》**

入園者の高齢化や認知症の方の増加に伴い、年を追う毎に日常生活動作（以下ADL）の低下や生活に於いて何らかの介助を必要とする人が増え、職員の手が追いついていないのが現状である。

そのため、生活の中で何か一部の介助を必要とした場合でも個々にどんな支援が必要かを見出すまでに至らず、全てを介助するという統一された援助方法が行われ、更に職員の手を要することになり悪循環に陥っていた。

又、入園者本人が身の回りについて「自身で判断できる」ことを「自立」とみなされ生活に於いての決定は長年の本人の意思に任されてきた。居室やベッドの上がひどく散らかっていても本人が「片付けない」「捨てなくていい」と判断した場合、それ以上その人のなかに踏み込めないという状況にあった。

果たして処遇目標としている「自立支援」とはいったい何か。一人ひとりの生活習慣

が強く根付いている人に対しどのような支援ができるのだろうか。

更に個々の状態を把握し、一人ひとりにどのような支援が必要かを検討する、ケース担当の役割や重要性が課題としてあげられる。

**《2. 研究の目的ならびに仮説》**

入園者一人ひとりに目を向け、個々に合った支援方法を見出すことで下記のことが期待された。

くり返し声掛けすることで入園者の意識向上を図り、関わりを深めることで職員自身のケース担当としての意識強化に繋げる。

できることを継続できない部分のみを支援し目標を達成することで「できることは自分でやる」という意欲を持ち、介護予防に繋げていく。一人でも多くの人を自立に向けていくことで、職員にゆとりができADLの低い人が入園した時に迅速に対応できるよう専門職としてのスキルアップを図る。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

平成27年1月8日現在の入園者131名を対象とし、2月6日から19日の期間で、各ケース担当ごとに洗濯、衣類の管理、居室の片付け、入浴の頻度に対する調査を行った。

洗濯、衣類の管理、居室の片付けは個人でできているかいないか、できない場合は、見守り、一部介助の必要性、入浴に関しては自立している・いないに関わらず、1週間に何回位入っているかを入園者一人ひとりに調査した。

洗濯の支援内容

- ①洗濯機のスイッチを入れる
- ②洗濯機に洗い物を取りに行く
- ③干す
- ④取り込む

①～④の作業のなかで、できない部分のみを援助した。

入浴の支援内容

入浴できていない対象者5名に対して、巡回者が声掛けを毎日行った。拒否が強い人に対しては声掛けの方法を工夫した。

### 《4. 取り組みの結果》

洗濯機のスイッチを入れ、洗濯完了までその人の出来ない部分のみを援助した結果、2か月かけて5名全員ができるようになった。

立位に不安のあるAさんも職員が見守った結果、「干す」以外の作業は出来ていたことから洗濯に関して「自立」という成果につながった。

拒否が強い方に対して再アセスメントを実施し、入浴の声掛けや時間の調整等を工夫した結果、本人の好きなタイミングに合わせて入浴するようになった。

入園者の生活状況を統計化した結果、様々な自立の為の課題が明確になった。

個別支援に向けた取り組みに一步踏み入れた。成果が出た人もいるが声掛けしても風呂に入らない人や居室の片付けが出来ていない人への対応など手を掛けられていない課

題も多い。

### 《5. 考察、まとめ》

本研究は高砂園が自立支援を目的とした養護老人ホームとしての本分を取り戻すことを目標としているが、現時点ではごく一部の人の課題解決に向けた支援が成果をあげたに過ぎない。

現在の高砂園がこのような状態になった背景には時代ともに権利意識の強い人が除々に増えたことが職員の手を多く要するようになった要因である事は否めない。

高齢化を大きな原因と捉えただけでは課題の一面しか解消できないとも考えられる。

職員も高砂園の長い歴史の中で入園者への自立に向けた支援の認識が薄れていたと思われる。今後はさらなる意識改革が必要であると痛切に感じられた。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

特になし

### 《8. 提案と発信》

養護老人ホームでは入園者のADL低下が深刻な問題の一つとなっている。新規で入園される人の中には在宅で介護サービスを利用し、入園してからも職員から同じ様な支援を受けられると思っている人や、在宅での生活が困難になり入所したが、介護度が低く特別養護老人ホームへの入所はできない人への中間施設としての役割が問われる。